

34	広島大学附属東雲中学校	25～28
----	-------------	-------

平成28年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

中学校特別支援学級における社会的・職業的自立を目指した、生活力を育成するためのカリキュラムの研究開発

2 研究の概要

本研究では、中学校特別支援学級で学ぶ知的障害のある生徒の就労を含む将来の生活を想定し、新教科「キャリアマネジメント」を含む、生涯にわたって自らの生活をマネジメントしていける生活力の育成を目指したカリキュラムを開発する。

新教科の開発に当たっては、特別支援学校（知的障害）中学部の教科である「職業・家庭」の内容に、ライフキャリアの視点から社会生活に関わる内容を付加し構築する。各分野の内容を有機的に関連付けた指導を行い、生徒一人ひとりのキャリア発達を促し、生涯にわたる社会生活をマネジメントしていける生活力を育成することを目指す。また、生徒の自尊感情を高め、基礎的・汎用的能力を育成する指導方法の開発、評価方法の検討も構想する。これらにより、中学校特別支援学級で学ぶ生徒の社会的・職業的自立を目指した、生活力を育成するためのカリキュラムに関する提言を行う。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究仮説

平成27年度は新教科「キャリアマネジメント」の各単元における単元計画を見直し、学習内容と学習活動および育てたい資質・能力を整理するとともに、評価の観点の見直し、年間指導計画の修正を行った。平成28年度は、修正した年間指導計画に基づいて授業を実施し、評価を行う。評価については引き続き、一人一人の学習状況を基に観点別の評価規準を設けた。それを基に生徒の変容を明らかにし、新教科「キャリアマネジメント」で育てたい資質・能力の育成が促されているかを検証する。この研究により、新しい時代の要請に応じた指導のあり方を明確にし、これからの社会を生きる生徒の社会的・職業的自立を一層進めることを期待する。

（2）教育課程の特例

教科「職業・家庭」にライフキャリアの視点から新たに将来の社会生活を踏まえた内容を加味し、新教科「キャリアマネジメント」（210時間）を設置した。これに伴い、教科「職業・家庭」は停止した。

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

従来の教科「職業・家庭」に、ライフキャリアの視点から将来の社会生活に関する内容を加味し、新教科「キャリアマネジメント」として位置づける。教科の目標や育てたい資質・能力等については次のように設定している。

①「キャリアマネジメント」の目標

社会生活および職業生活・家庭生活上必要となる基礎的な知識・技能と態度の習得を図り、自己の将来の生活についてマネジメントしようとする態度を育てる。

②育てたい資質・能力

- ア. 主体的な社会生活への意欲（人間関係形成・社会形成能力，キャリアプランニング能力）
- イ. 他者と適切にかかわる力（人間関係形成・社会形成能力）
- ウ. 自己有用感・自己効力感等の内発的な意欲（自己理解・自己管理能力）
- エ. 自己の理解と把握による評価力（自己理解・自己管理能力，課題対応能力）

③指導目標

1. 自己の適切な把握に基づき，思考・判断・選択を繰り返しながら学習活動を行い，集団の中で役割と責任を果たすことができるようにする。
2. 社会生活，職業生活，家庭生活に必要な知識と技能を身に付け，将来の自立した生活に向けた意欲をもつことができるようにする。

④教科「職業・家庭」に付加した指導内容

- ・他者とのかわりをおして自分の社会生活を考えていくことに意欲をもつ
- ・社会生活に必要なマナーやルールが分かり，場に応じて判断したり，使用したりする
- ・自他の活動を振り返り，適切な自己評価を行い，次の活動を創造することに意欲をもつ

(2) 研究の経過

	実施内容等
第1年次 (平成25年度)	<p>(1) 研究開発に関わる基礎調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none">① 現行教育課程における新教科開発上の問題点の分析② 生徒の職業意識・勤労意識に関わる意識等に関する自尊感情の基礎調査, T T A P フォーマルアセスメントの研修・実施③ 先進校視察 <p>(2) カリキュラム開発</p> <ul style="list-style-type: none">① 研究構想案作成② 研究部による事前評価③ 資質・能力の具体化・焦点化④ 単元及び教材, 学習指導法の研究開発, 単元実践施行⑤ 評価方法に関わる研究⑥ 公開研究会の開催⑦ 初年度実践の評価 <p>(3) 初年度研究開発の評価及び第二年次研究計画案作成</p> <ul style="list-style-type: none">① 研究の成果と課題の明確化② 教育・研究構想案修正③ 次年度教育課程試案及び年間計画案作成
第2年次 (平成26年度)	<p>(1) カリキュラム開発</p> <ul style="list-style-type: none">① 目標・内容の設定による前年度作成カリキュラムの通年実施② 研究部による中間評価の実施③ 単元及び教材, 学習指導法の研究開発による授業改善④ 先進校視察 (近隣の特別支援学校等)⑤ 公開研究会の開催 (東雲教育研究会での授業公開)⑥ 第二年次実践の評価 <p>(2) 第二年次研究開発の評価及び第三年次研究計画案作成</p> <ul style="list-style-type: none">① 研究の成果と課題の明確化② 教育・研究構想案修正③ 次年度教育課程試案及び年間計画案作成
第3年次 (平成27年度)	<p>(1) 改善カリキュラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none">① 前年度作成カリキュラムの通年実施② 研究部による中間評価の実施③ 単元及び教材, 学習指導法の研究開発④ 公開研究会の開催 (東雲教育研究会での授業公開)⑤ 第三年次実践の評価 <p>(2) 第三年次研究開発の評価及び第四年次研究計画案作成</p> <ul style="list-style-type: none">① 研究の成果と課題の明確化② 教育・研究構想案修正③ 次年度教育課程試案及び年間計画案作成

	実施内容等
第4年次 (平成28年度)	(1) 改善カリキュラムの実施 ①前年度作成カリキュラムの通年実施 ②公開研究会の開催 ③第四年次実践の評価 ④研究部による最終評価の実施 (2) 評価及び生活にもとづく提言 ①研究報告書の作成

(3) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次 (平成25年度)	(1) 施行実施單元における効果測定 (適宜) ①アンケートによる意識調査および行動観察による変容の集約 ②施行單元における各能力に関わる行動尺度を作成 ③作成した尺度に基づく行動分析・観察評価を実施 (2) 内部評価 (特別支援教育担当教員, 研究開発部教員) (3) 指導助言および外部評価 (7, 11, 2月 研究開発運営指導委員会)
第2年次 (平成26年度)	(1) 実施カリキュラムの効果測定 (適宜) ①追加・修正実施單元における能力要素評価の実施 ②変容に関わる指標の作成 ③自尊感情と関連する自己肯定感・自己効力感の測定の継続 (2) 内部評価 (特別支援教育担当教員, 研究開発部教員2月) (3) 指導助言および外部評価 (7, 12, 2月 研究開発運営指導委員会)
第3年次 (平成27年度)	(1) 改善カリキュラムの効果測定 (適宜) ①追加・修正実施單元における能力要素評価の継続実施 ②自尊感情と関連する自己肯定感・自己効力感の継続測定 (2) 内部評価 (特別支援教育担当教員, 研究開発部教員) (3) 外部評価 (7, 12, 2月 研究開発運営指導委員会)
第4年次 (平成28年度)	(1) 改善カリキュラムの効果測定 (適宜) ①追加・修正実施單元における能力要素評価の継続実施 ②変容に関わる指標の作成 ③自尊感情と関連する自己肯定感・自己効力感の継続測定 (2) 内部評価 (特別支援教育担当教員, 研究開発部教員) (3) 外部評価 (4, 6, 12月 研究開発運営指導委員会)

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

①児童・生徒への効果

継続して生徒に実施してきた「キャリア教育の基礎的・汎用的能力に関するアンケート」を、今年度9月に実施した。アンケート結果を同一生徒の1年時と3年時で比較したところ、多くの生徒で成長を実感した回答が増えていた。このことから、生徒は「キャリアマネジメント」を含む学習の繰り返しにより、自信をもって取り組めるようになっていくことがうかがえた。

TTAP(自閉症スペクトラムの移行アセスメントプロフィール)によるアセスメントを実施した。1年時と3年時の結果を比較すると、どの生徒も芽生えが合格に代わり、さらに新たな芽生えが増加していることがわかり、3年間での成長を具体的に見取ることができた。

「キャリアマネジメント」によって育てたい4つの資質・能力について、生徒のワークシートの記述や言動から考察した。まず1つ目に「ア 主体的な社会生活への意欲」についてである。生徒の言動を観察し記録することにより見取った。生徒の実態を見極め、長所を活かし役割を果たす経験を積み重ねることで、集団を意識した意見の表出ができるようになり、先を見通して考え主体的に行動できるようになるといった成長が見られた。

2つ目に「イ 他者と適切にかかわる力」についてである。生徒のワークシートの振り返りでの記述では、1年生では自分に関する評価や感想が中心だったが、学年が上がると次第に他者を意識した記述が増加した。このことから、集団での協働的問題解決により、他者と適切に関わる力がついてきたのではないかと考える。

3つ目に「ウ 自己有用感・自己効力感等の内発的な意欲」についてである。繰り返しによる学習を積み重ね、協働的に問題解決をする場面や役割を担う場面を多く設定し、自己肯定感を高められるような言葉かけをして生徒の実態に合わせた指導・支援を行った。また、繰り返しの学習においても学年段階に応じて役割や学習内容をステップアップしていくことで、自己肯定感の高まりや自己有用感・自己効力感に基づく意欲の高まりを確認することができた。

4つ目に「エ 自己の理解と把握による評価力」についてである。自己評価に加え、他者評価を取り入れ他者のよさに気づくような振り返り、思いを言語化して伝え他者と共有するといった取り組みの中で、自信の回復や自己肯定感の高まりが見られ、他者の姿をとおして自分と向き合い、適切な自己理解につながったことがうかがえた。

4つのどの資質・能力も、繰り返し経験し学習すること、集団の中で自分の思いを言語化し、他者と共有するといった活動をとおして育つこと、さらには生徒自身のマネジメントの力の伸長につながることを確認することができた。

②教師への効果

4種類のアセスメント(S-M 社会生活能力検査, WISC-IV, K-ABC II, TTAP)の実施および、生徒を対象に「キャリア教育の基礎的・汎用的能力に関するアンケート」を実施した。このことにより多面的・分析的に生徒を理解しようという意識が高まった。また、教職員間で情報を共有することにより、生徒への理解が深まった。

また、授業改善の取り組みや先進的な取り組みをしている特別支援学校への視察をとおして、よりよい指導内容や方法、評価についての知見を得るとともに、本カリキュラムにおける指導内容や方法、評価を改善する意識が高まった。合わせて、学会に参加して就労に関する情報収集を行うことで、教育実践を見直し、「キャリアマネジ

メント」の教育課程上の位置づけやライフキャリアの中での中学校段階の役割について整理していくことができた。そして、この研究開発の取り組みをとおして、特別支援教育のカリキュラム開発や運用における教職員の体制づくりの要点が明らかになった。

③保護者への効果

本学級は青年学級生（本学級の卒業生）との合同行事があることや、本学級と隣接する東雲小学校特別支援学級の保護者および青年学級生の保護者で構成する「東雲親の会」があり縦のつながりが強い。また、本校に障害者雇用による環境職員2名（本学級の卒業生）が雇用されており、広島大学各キャンパスにも本学級の卒業生が雇用されている。このように、進路に関する情報交換が日常的になされる教育環境が整っている。本学級の保護者は、入学前教育相談時のアンケートや毎年行っている個別の教育支援計画・指導計画作成のためのアンケートにおいて、高等部段階卒業後の進路は全員就労を希望している。また、働くことや社会参加に関して期待や関心が高い。こういったことから「キャリアマネジメント」実施が肯定的に受け入れられ、入学前教育相談の段階から期待の声が寄せられていた。

研究開発の効果を見取る上で、家庭での汎化の様子を見取ることは重要となるので、保護者に「キャリアマネジメント」の学習内容をよく知ってもらうために、懇談会、授業参観、学級通信、日々の連絡帳等で積極的に情報提供を行った。その上でアンケートを実施したり、懇談等で直接聞き取りを行ったり、連絡帳に「キャリアマネジメント」についての項目を追加し記入してもらったりすることで効果を見取った。

アンケートで「授業で学習したことを家で話しているか」「授業で学習したことを家でもやっているか」について尋ね、現在中学3年生の1年時からの変容を調べた。授業で学習したことを家庭で話している生徒は1年時からある程度いるが、授業で学習したことを家でもよくやっている生徒の数が3年時になってから増えていた。このことから、繰り返し学習することに効果があることがうかがえた。具体的な汎化の例としては、「妹の小学校入学に際し、安全マップ（社会生活に関する内容の単元「くらしの110番」での学習内容）を作成した」「学校でPC入力の上達をほめられ、家でも取り組んでいる」「掃除や調理、洗濯干しなど、自主的にするようになった」等が挙げられた。学校でやって自信が付いた活動や興味をもった活動を家庭で話したり実践したりしていることがわかった。

次に、「キャリアマネジメント」の学習による生徒の変化や成長を、保護者がどのように感じているかをアンケートや連絡帳の記述から考察した。「明日の職場体験学習を考え、行動をコントロールしていた」「自分が将来やってみたいことについて話をするようになった」「仕事＝社会貢献という意識がもてるようになった」等の記述があり、多くの保護者が「キャリアマネジメント」の学習による生徒の変化や成長を感じていた。教員と保護者の双方向的な情報交換により、生徒の成長を確認し合うことができた。一方で、「聞いても『わからない』『忘れた』と言って教えてくれない」「いろいろ話をしているが、何を言っているのかよくわからない」「変化を感じる場面がない」といった記述もあった。保護者からのこのようなコメントも「キャリアマネジメント」実施の効果や今後の取り組みへの示唆を与えてくれる情報となった。言葉で伝えることが困難な生徒の場合、保護者とのさらにきめ細かいやりとりや、懇談会等でのICTのさらなる活用も模索していく必要がある。

最後に、保護者が「キャリアマネジメント」の学習をとおしてつけてほしい、伸ばしてほしいと思っている力について、アンケートの記述から考察した。「自分で考え行動する力」「人とかかわる力」「粘り強く取り組む姿勢」「自分の役割を責任もって果たす力」等の記述から、保護者がつけてほしいと思っている力は、社会と関わりをもって生活していく上で大切な力であり、「キャリアマネジメント」の目標や教師がつけたい資質・能力と合致していることがわかった。このことから、「キャリアマネジメント」実施へのニーズがあることが確認できた。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

研究開発における課題として次の3点を挙げる。1つ目が、学習評価を次の教育実践に活かすための方策について、十分な検証ができていないという点である。2つ目に、「キャリアマネジメント」と他の教科とのつながりを明らかにするまでには至っていないという点である。3つ目に、連続したキャリアの中の中学校段階におけるキャリア教育のあり方について、生徒の実態や社会情勢を把握しながら検討し、キャリア教育推進の取り組みを継続し発信していくことが今後の課題である。

最後に実施上問題となる点について述べる。本校の場合、小学校と隣接していることや本校特別支援学級卒業後に「青年学級」という卒業生の組織があること、小学校・中学校特別支援学級および青年学級の保護者で組織する「親の会」があること、大学附属の学校であるため大学との連携があるといった様々な資源を最大限に活用して「キャリアマネジメント」の授業実践を含む教育実践を行ってきた。また、既存のつながりだけでなく、学校周辺の地域とのつながりもつくってきた。このような学校内にとどまらない教育実践によって、生徒の資質・能力の伸長が見られ、生徒のキャリア発達を促すことにつながったと考える。キャリア教育を推進する際、各学校や地域の状況に応じた連携・協力の体制をいかに構築するかが実施上の問題となると考えられる。

広島大学附属東雲中学校 教育課程表（平成28年度）

平成28年度 各教科等の授業時数配当表						
学 年		1 学年	2 学年	3 学年	総授業時数	
各教科	必修教科	国語	105	105	105	315
		社会	70	70	70	210
		数学	105	105	105	315
		理科	70	70	70	210
		音楽	35	35	35	105
		美術	70	70	70	210
		保健体育	70	70	70	210
	選択教科	外国語	70	70	70	210
	特例によって 設置した 教科	キャリア マネジメント	210	210	210	630
道徳		35	35	35	105	
総合的な学習の時間		70	70	70	210	
特別活動		35	35	35	105	
自立活動		70	70	70	210	
合計		1015	1015	1015	3045	

平成28年度 指導形態別授業時数配当表						
学 年		1 学年	2 学年	3 学年	総授業時数	
各教科等を 合わせた指導	生活単元学習	245	245	245	735	
各教科	必修教科	国語	70	70	70	210
		社会	0	0	0	0
		数学	70	70	70	210
		理科	0	0	0	0
		音楽	35	35	35	105
		美術	70	70	70	210
		保健体育	70	70	70	210
	選択教科	外国語	70	70	70	210
	特例に よって 設置した 教科	キャリア マネジメント	210	210	210	630
道徳		0	0	0	0	
総合的な学習の時間		70	70	70	210	
特別活動		35	35	35	105	
自立活動		70	70	70	210	
合計		1015	1015	1015	3045	

学校等の概要

1 学校名、校長名

ヨクリツダイガクホウジンヒロシマダイガクフゾクシノノメチュウガッコウ
 国立大学法人広島大学附属東雲中学校

校長 朝倉 淳

2 所在地、電話番号、FAX番号

〒734-0022 広島県広島市南区東雲三丁目 1-33
 ☎082 (890) 5222 FAX 082 (890) 5226

3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
80	2	77	2	80	2	237	6
4	1	4	1	6	1	14	3

* 下段は特別支援学級

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1	0	1	0	15	0	1	0	0	6
ALT	スクール カウンセ ラー	事務職員	司書	計						
1	1	3	1	31						